

ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
横澤 一彦

教育の責任

1. 何を担当しているのか

社会は人と人のつながりの中で成り立っています。その際、相互の理解が必須ですが、相手のこと、そして自分自身のことでさえも、本当は正しく理解できていないかもしれません。専門とする認知心理学や認知科学は、人間の行動の基本となる仕組みを明らかにしようとする学問分野です。このような専門分野を背景として、学びの場を提供する授業を担当しています。各担当科目での教育に取り組み、様々な分野の様々な職種で活躍する人材として、深く人間理解ができ、人と人のつながりを重視する人材を育てる責任を果たしていきたいと思います。

2. 担当科目

現在（2025 年度）の担当科目とその概略は以下のとおりです。

科目名	対象 学年	受講人数※	授業形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
メディアデザイン特論Ⅲ	2	(若干名)	講義	選択	専門科目
専門演習ゼミ1	3	1	演習	選択	専門応用科目
専門演習ゼミ2	4	1	演習	選択	専門応用科目
卒業研究	4	1	演習	選択	専門応用科目

教育の理念

1. 人という存在に、より興味を持てる授業

当たり前前の日常を切り取った、人間の基本的な行動を反映する心理現象などを体験的に学習してもらい、自分自身を含めた、人という存在に、今まで以上に興味を持ってもらうことで、主体的な学びを促進するような授業を目指します。受講生が自ら自分自身のことをもっと知りたいという意欲を喚起し、人間理解への能動的な興味を高めることができるような教育に取り組みます。

2. 達成感を感じることができる授業

授業によって、受講生がどのような知識を得ることができたのかということが明示的に確認できることは、達成感にもつながり、重要です。授業が一方的な情報提供にならないように、授業の中で受講生が学んだことを確認できるような機会を設け、教員と受講生がお互いに授業に対する理解度を知ることによって、教員は受講生の理解レベルを丁寧に確認し、受講生は新しい知識を得たという達成感を醸成し、学ぶことの楽しさが感じられるように心がけます。

3. 自分自身を客観視できる学生の育成

科学的な研究手法で明らかにされてきた、人間の基本的な特徴や仕組みを体系的に知ることで、人としての存在である自分自身を改めて客観視できるようになります。授業の中で、人間理解につな

る様々な知見を幅広く紹介し、社会の中での実践的な課題に対して、科学的な思考に基づいて判断し、行動できるような学生を育成します。

教育の方法

1. 授業におけるマルチメディア情報の活用

授業では、受講生自身も含めた、人という存在に興味を持ってもらえるように、写真、音声、動画などのマルチメディア情報を多用したパワーポイントを使用しながら進行し、その中で各授業に即した、人間行動に関わる様々な心理現象などを体験的に学習できるように工夫し、体験学習を通じて、その背景となる人間行動の特徴や仕組みについて、受講生が深く理解できるように、丁寧な説明を心がけています。

2. Google Classroom を通じ、授業内容理解を確認

Google Classroom を通じて、出席確認も兼ね、毎回授業内容の理解を確認するための簡単な課題を課し、受講者全員の提出が確認された後に、その授業時間内で必ず回答例をフィードバックすることで、受講生自身に理解の度合いを確認してもらっています。検定に準拠した授業では、過去の検定において出題された問題が、授業において課題として出題されることもあるので、授業によって養われた実力をすぐに確認することができます。

3. 教員執筆書籍もしくは検定準拠の教科書の使用

授業は基本的に各科目に適した内容を体系的に網羅した教員執筆書籍もしくは検定準拠の教科書(テキスト)を使用し、当該分野の科学的手法に基づく最新の研究成果も含めた内容を、厳選されたキーワードを強調したパワーポイントで示すと同時に、教科書(テキスト)の該当箇所を確認しながら、進行しています。教科書(テキスト)を指定することで、授業内容の予習、復習に有効に活かすことができます。

教育の成果 および 今後の目標

詳細は「授業改善報告書」を参照。

参考資料

授業で使用した Google Classroom(授業すべて、部外秘)